

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01313

研究課題名（和文）西遷・北遷東国武士の社会的権力化

研究課題名（英文）A study on the social empowerment of eastern samurai who moved west and north

研究代表者

田中 大喜（TANAKA, HIROKI）

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授

研究者番号：70740637

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、東国武士による西遷・北遷先の地域支配の実態を究明するべく、千葉氏が西遷した肥前国小城郡、和田氏が北遷した越後国奥山荘、小早川氏が西遷した安芸国沼田荘をフィールドにして、文献史学・考古学・美術史学・民俗学・歴史地理学による学際的な地域総合調査を実施した。これにより、西遷・北遷東国武士と在来諸勢力双方に関わる多様な諸資料を広く調査することができ、両者の社会的合意の内実を立体的に明らかにすることができた。また、この地域総合調査による情報をもとに、西遷・北遷先に形成された東国武士の本拠空間の復元も行った。これにより、西遷・北遷東国武士の地域支配の基盤を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来東国武士を主体とした発想によって構築されてきた東国武士による西遷・北遷先の所領支配のあり方を、12世紀末以来交流してきた在来諸勢力との社会的合意の形成にもとづき、東国武士が西遷・北遷先の所領に形成されていた地域社会を統合・編成するに至った現象と把握し直し、これを西遷・北遷東国武士の社会的権力化と捉えることでその相対化を図った。また本研究は、学際的な地域総合調査として実施したが、これは西遷・北遷の総合的研究としての初めての試みだった。本研究の成果は学術論文だけでなく、展示や市民を対象とした講演会としても公表した。これにより、研究成果を社会に対しても広く発信・還元することができた。

研究成果の概要（英文）：In this research, in order to investigate the realities of regional rule by samurai in the eastern part of Japan after they moved to the west and north, we conducted an interdisciplinary regional comprehensive survey based on literary history, archaeology, art history, folklore, and historical geography with the fields of (1) Ogi County, Hizen Province, (2) Okuyama Villa, Echigo Province, and (3) Nuta Villa, Aki Province. As a result, we were able to extensively research various materials related to both the samurai who moved to the west and the north and to the indigenous powers, and were able to clarify the substance of the social agreement between the two in a three-dimensional manner. In addition, based on the information obtained from this comprehensive regional survey, we also reconstructed the base space of the eastern samurai that was formed after they moved to the west and to the north. As a result, we were able to clarify the basis of the regional control of them.

研究分野：日本中世史

キーワード：西遷・北遷 社会的権力化 地域総合調査

### 1. 研究開始当初の背景

これまで東国武士の西遷・北遷に関する研究は、その契機や、西遷・北遷先の所領における東国武士固有の領主支配の実態について議論を蓄積し、成果を挙げてきた。これらの先行研究は、いずれも東国武士を主体とした発想・研究視角によって組み立てられている点において、共通している。すなわち、東国武士の西遷・北遷の契機や、西遷・北遷先での領主支配の実態について、基本的に東国武士側の文献資料に依拠してその立場から追究しており、西遷・北遷先の在来諸勢力(在来武士・宗教勢力・地域民衆)は東国武士の支配=抑圧を受ける存在として描かれているのである。

こうした先行研究の背景には、東国社会と西国・東北社会とを対立的に捉える視角が認められる。しかし近年では、中世の列島社会の東西を結ぶ人・モノの盛んな交流の実態が明らかにされ、東国社会と西国・東北社会とを対立的に捉える視角は相対化されている。したがって、東国武士の西遷・北遷についても、東国武士と在来諸勢力とを対立的に捉えるのではなく、両者の交流という視角から捉え直すことが現在の研究段階においては必要とされていると考える。

### 2. 研究の目的

本研究は、従来、東国武士と在来諸勢力とを対立的に捉えてきた西遷・北遷という歴史事象を、両者の交流という研究視角から捉え直す。そのため、東国武士が西遷・北遷先の所領を東国本領に代わる新たな本領として再構成し、そこを支配するあり方については、12世紀末~13世紀前半以来日常的に交流してきた在来諸勢力との社会的合意の形成にもとづき、東国武士が西遷・北遷先の所領に形成されていた地域社会を統合・編成するに至った現象と把握し直す。本研究では、これを西遷・北遷東国武士の社会的権力化と捉え、東国武士の西遷・北遷という歴史事象の本質と理解し、その実態を究明する。

### 3. 研究の方法

東国武士の西遷・北遷先の所領には、先行する在来諸勢力を構成員とする地域社会が形成されていた。やがて在来諸勢力との社会的合意にもとづき西遷・北遷東国武士が当該地域社会を統合・編成する主体(権力)に成長すると、既存の地域社会の構造と秩序は大きく変容したと考えられる。その様相を子細に追究することにより、西遷・北遷東国武士の社会的権力化の実態=在来諸勢力との社会的合意の内実を究明できると考える。そこで本研究ではまず、東国武士の西遷・北遷以前の地域社会の構造と秩序の具体相を明らかにする。従来の西遷・北遷論では、移住先の地域社会は東国武士の支配が展開する場として扱われたため、その主体的な姿を追究する視角を欠いていた。これに対し、在来諸勢力との社会的合意形成を重視する本研究では、在来諸勢力が形成した地域社会の主体的な姿を追究し、東国武士の西遷・北遷を受け入れた「素地」を解明する。そのうえで、東国武士の西遷・北遷により、地域社会の構造と秩序はいかなるものに変容したかについて、地域の政治史の展開に留意しながら追究する。

この課題追究を基礎づけるのは、西遷・北遷東国武士と在来諸勢力双方に関わる多様な諸資料の収集・分析である。家伝・寺伝文書等の中世の文献資料や家譜・軍記・寺社縁起等の近世の文献資料は、情報量に富むため根本的な資料になるが、東国武士と在来諸勢力とが複雑な関係(秩序)を築きながら展開した中世の地域社会における生業・流通・信仰の様相を伝えるものは少ない。これらの様相を究明するためには、集落・集散地遺跡からの出土遺物のほか、東国武士と在来諸勢力が製作した板碑・五輪塔等の石造物や仏像等、生業・流通・信仰の現場で使用された考古・美術資料からの情報抽出が不可欠となる。また、聞き取りから得られる当該地域に古くから伝わる生業や信仰の民俗情報もこれを補完する資料となる。これらの多様な諸資料を時系列に沿って総合的に分析することで、東国武士の西遷・北遷を画期とした地域社会の構造と秩序の変容の具体相に初めて迫れると考える。

### 4. 研究成果

#### 【雑誌論文】

- 井上聡「研究資源の生成・活用をめぐる」(『歴史評論』831号、2019年)  
「研究機関による歴史データベースの構築について」(『歴史学研究』1028号、2022年)  
貴田潔「鎌倉期の半不輪村落における生業・景観と在地領主 肥前国高来西郷伊福村・大河村と大河氏を素材として」(『国立歴史民俗博物館研究報告』掲載予定)  
黒嶋敏「伊達輝宗文書の基礎的研究」(『古文書研究』87号、2019年)  
「戦国期の阿武隈湊と亘理家宿老涌沢氏」(『青山史学』40号、2022年)  
「奥羽から見た越後応永の乱 伊達氏の侵入とその背景」(『国立歴史民俗博物館研究報告』掲載予定)  
神野祐太「神奈川・松蔭寺所蔵銅造如来坐像(伝阿弥陀如来像)とその伝来」(『神奈川県立博物館研究報告(人文科学)』46号、2019年)  
「養命寺薬師如来像に関する一考察」(『藤沢市文化財調査報告書』55号、2020年)

- 「海老名・龍峰寺千手観音菩薩立像について」(『神奈川県立博物館研究報告(人文科学)』48号、2022年)
- 鈴木康之「中世考古学における流通史研究の現状と課題」(『考古学ジャーナル』775号、2022年)
- 「備後『草津』と御家人長井氏 領主拠点としての港湾集落」(『国立歴史民俗博物館研究報告』掲載予定)
- 高橋典幸「西遷武士小早川氏と楽音寺」(『国立歴史民俗博物館研究報告』掲載予定)
- 田中大喜「薩摩千竈氏再考」(『国立歴史民俗博物館研究報告』226集、2021年)
- 「南北朝～室町期武家の兄弟惣領」(『日本歴史』896号、2023年)
- 「肥前千葉氏の本拠形成と領主支配」(『国立歴史民俗博物館研究報告』掲載予定)
- 湯浅治久「戦国史研究における地域社会の描き方」(『歴史評論』852号、2021年)
- 「近江源氏佐々木氏の『西遷』(近江回帰)について 佐々木京極氏・佐々木朽木氏を中心に」(『国立歴史民俗博物館研究報告』掲載予定)
- 渡邊浩貴「湧水は中世景観を語れるのか 滋賀県甲賀市水口町の現地調査と山中氏両惣領家」(『民衆史研究』101号、2021年)
- 「源義朝権力の地域基盤と武士拠点」(『国立歴史民俗博物館研究報告』掲載予定)

#### 【学会発表】

- 黒嶋敏「伊達氏と京都の幕府 - 奥州探題への道」伊達市歴史文化講演会(招待講演) 2019年
- 「アジアのなかの島津義久・義弘」鹿児島県歴史資料センター黎明館講演会(招待講演) 2019年
- 神野祐太「三原の仏像と仮面 土肥氏関連寺院を中心に」令和4年度沼田荘総合調査講演会、2023年
- 田中大喜「シモン・チェルカフスキ「ボン大学の地頭データベース」へのコメント」国際研究集会「日本中世史データベースの国際比較」(招待講演) 2021年
- 「中世武士団の地域支配」第114回歴博フォーラム「中世武士団の世界」、2022年
- 「肥前千葉氏の本拠を探る」千葉氏を語る会「九州千葉氏の動向」記念講演(招待講演) 2022年
- 「西遷・北遷武家領主と鎌倉期東国武家社会」中世史研究会50周年記念大会シンポジウム「列島東西の社会構造とその変質」(招待講演) 2022年
- 「沼田小早川氏の本拠を探る」令和4年度沼田荘総合調査講演会、2023年
- 松田睦彦「石丁場 - 技術の進歩と景観の変化 -」第24回常民文化研究講座 景観の総合資料学 漁場図を読む2、2020年
- 村木二郎「中世の信仰を分析する 堂ヶ谷遺跡の青銅製品から」「富士山の日」歴史講演会(招待講演) 2021年

#### 【図書】

- 田中大喜編『中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る』(勉誠出版、2021年)
- 国立歴史民俗博物館編『企画展示 中世武士団 地域に生きた武家の領主』(歴史民俗博物館振興会、2022年)

#### 【展示】

- 国立歴史民俗博物館企画展示「中世武士団 地域に生きた武家の領主」2022年3月15日～5月8日
- 神奈川県立歴史博物館特別展「足柄の仏像」2023年10月7日～11月26日

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 田中大喜	4. 巻
2. 論文標題 肥前千葉氏の本拠形成と領主支配	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 田中大喜	4. 巻 896
2. 論文標題 南北朝～室町期武家の兄弟惣領	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 34-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田中大喜	4. 巻
2. 論文標題 石見国高津川・益田川河口域の集散地と武家領主	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る	6. 最初と最後の頁 143-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 村木二郎	4. 巻
2. 論文標題 陶磁器からみた中世益田	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る	6. 最初と最後の頁 241-259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貴田 潔	4. 巻
2. 論文標題 鎌倉期の半不輪村落における生業・景観と在地領主 肥前国高来西郷伊福村・大河村と 大河氏を素材として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 貴田 潔	4. 巻
2. 論文標題 遠江国笠原荘の「浦」にみる中世の港湾と海村	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る	6. 最初と最後の頁 207-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯浅 治久	4. 巻
2. 論文標題 近江源氏佐々木氏の「西遷」(近江回帰)について 佐々木京極氏・佐々木朽木氏を 中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 湯浅 治久	4. 巻
2. 論文標題 中世武士団における一族・被官の西遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る	6. 最初と最後の頁 102-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木康之	4. 巻
2. 論文標題 河口の港が果たした役割 瀬戸内海と日本海を比較して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る	6. 最初と最後の頁 170-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒嶋敏	4. 巻
2. 論文標題 奥羽から見た越後応永の乱 伊達氏の侵入とその背景	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒嶋敏	4. 巻 40
2. 論文標題 戦国期の阿武隈湊と巨理家宿老涌沢氏	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 青山史学	6. 最初と最後の頁 93-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊浩貴	4. 巻
2. 論文標題 源義朝権力の地域基盤と武士拠点	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊浩貴	4. 巻 101
2. 論文標題 湧水は中世景観を語れるのか 滋賀県甲賀市水口町の現地調査と山中氏両惣領家	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 民衆史研究	6. 最初と最後の頁 15-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊浩貴	4. 巻
2. 論文標題 西遷御家人内田氏の本拠景観と高津川流域 現地調査の聞き書きと文献史料から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る	6. 最初と最後の頁 21-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田睦彦	4. 巻
2. 論文標題 そこに港は存在したのか? 伝承からたどる中世の益田	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る	6. 最初と最後の頁 189-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大喜	4. 巻 226
2. 論文標題 薩摩千竈氏再考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 289-305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木康之	4. 巻
2. 論文標題 備後『草津』と御家人長井氏 領主拠点としての港湾集落	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木康之	4. 巻 775
2. 論文標題 中世考古学における流通史研究の現状と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋典幸	4. 巻
2. 論文標題 西遷武士小早川氏と楽音寺	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 湯浅治久	4. 巻 852
2. 論文標題 戦国史研究における地域社会の描き方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 神野祐太	4. 巻 55
2. 論文標題 養命寺薬師如来像に関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藤沢市文化財調査報告書	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒嶋敏	4. 巻 87
2. 論文標題 伊達輝宗文書の基礎的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 23-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上聡	4. 巻 1028
2. 論文標題 研究機関による歴史データベースの構築について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 155-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上聡	4. 巻 831
2. 論文標題 研究資源の生成・活用をめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 16-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野祐太	4. 巻 46
2. 論文標題 神奈川・松蔭寺所蔵銅造如来坐像（伝阿弥陀如来像）とその伝来	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神奈川県立博物館研究報告（人文科学）	6. 最初と最後の頁 23-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 神野祐太	4. 巻 46
2. 論文標題 神奈川・松蔭寺所蔵銅造如来坐像（伝阿弥陀如来像）とその伝来	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神奈川県立博物館研究報告（人文科学）	6. 最初と最後の頁 23-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 田中大喜
2. 発表標題 沼田小早川氏の本拠を探る
3. 学会等名 令和4年度沼田荘総合調査講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 神野祐太
2. 発表標題 三原の仏像と仮面 土肥氏関連寺院を中心にして
3. 学会等名 令和4年度沼田荘総合調査講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田中大喜
2. 発表標題 中世武士団の地域支配
3. 学会等名 第114回歴博フォーラム「中世武士団の世界」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中大喜
2. 発表標題 肥前千葉氏の本拠を探る
3. 学会等名 千葉氏を語る会「九州千葉氏の動向」記念講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中大喜
2. 発表標題 西遷・北遷武家領主と鎌倉期東国武家社会
3. 学会等名 中世史研究会50周年記念大会シンポジウム「列島東西の社会構造とその変質」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中大喜
2. 発表標題 シモン・チェルカフスキ「ボン大学の地頭データベース」へのコメント
3. 学会等名 国際研究集会「日本中世史データベースの国際比較」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村木二郎
2. 発表標題 中世の信仰を分析する 堂ヶ谷遺跡の青銅製品から
3. 学会等名 「富士山の日」歴史講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田睦彦
2. 発表標題 石丁場 - 技術の進歩と景観の変化 -
3. 学会等名 第24回常民文化研究講座 景観の総合資料学 - 漁場図を読む2 -
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 伊達氏と京都の幕府 - 奥州探題への道
3. 学会等名 伊達市歴史文化講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 アジアのなかの島津義久・義弘
3. 学会等名 鹿児島県歴史資料センター黎明館講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 田中大喜編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 352
3. 書名 中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る	

1. 著者名 田中大喜・荒木和憲・村木二郎編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 184
3. 書名 企画展示 中世武士団 地域に生きた武家の領主	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 典幸  (TAKAHASHI NORIYUKI)  (10292799)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授    (12601)	
研究分担者	鈴木 康之  (SUZUKI YASUYUKI)  (10733272)	県立広島大学・人間文化学部・教授    (25406)	
研究分担者	井上 聡  (INOUE SATOSHI)  (20302656)	東京大学・史料編纂所・准教授    (12601)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	貴田 潔  (KIDA KIYOSHI)  (30759064)	静岡大学・人文社会科学部・准教授    (13801)	
研究分担者	松田 睦彦  (MATSUDA MUTSUHIKO)  (40554415)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授    (62501)	
研究分担者	神野 祐太  (JINNO YUUTA)  (40757473)	神奈川県立歴史博物館・学芸部・学芸員    (82702)	
研究分担者	村木 二郎  (MURAKI JIRO)  (50321542)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授    (62501)	
研究分担者	渡邊 浩貴  (WATANABE HIROKI)  (60810900)	神奈川県立歴史博物館・学芸部・学芸員    (82702)	
研究分担者	湯浅 治久  (YUASA HARUHISA)  (70712701)	専修大学・文学部・教授    (32634)	
研究分担者	黒嶋 敏  (KUROSHIMA SATORU)  (90323659)	東京大学・史料編纂所・准教授    (12601)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小野 正敏  (ONO MASATOSHI)		
研究協力者	池谷 初恵  (IKEYA HATSUE)		
研究協力者	佐々木 健策  (SASAKI KENSAKU)		
研究協力者	栗木 崇  (KURIKI TAKASHI)		
研究協力者	竹下 正博  (TAKESHITA MASAHIRO)		
研究協力者	田久保 佳寛  (TAKUBO YOSHIHIRO)		
研究協力者	時元 省二  (TOKIMOTO SHOJI)		
研究協力者	土山 祐之  (TSUCHIYAMA YUSHI)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	後藤 真  (GOTO MAKOTO)		
研究協力者	荒木 和憲  (ARAKI KAZUNORI)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 日本中世史データベースの国際比較	開催年 2021年～2021年
----------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関